

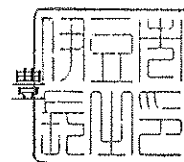
伊土建 110 号
平成 20 年 10 月 17 日

国土交通省道路局長

金井 道夫 様

伊豆市長

菊地



意 見 書

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

静岡県伊豆市

―背景

我が国の問題点は、国家の均衡発展が実現せず、社会インフラ整備や福祉といった産業・生活基盤にかかわる施策が、市町の立地条件と財政力によって著しい格差が生じていることにある。道路に限定しても、静岡県東部において元気があるのは御殿場～裾野～沼津～富士の東名高速道路沿線の各市であり、その他の市町が企業誘致等産業振興においてこの差を知恵とアイデアで埋めることは不可能に近い。政策全般について、地方が努力で存続し、発展できる必要最小限の環境整備を進めるために、政策の整合性を図っていただきたい。

現実の問題として、「すべての地方に同じ土俵を提供すること」は不可能である。気候も地形も立地も、全てはそもそも「生まれながらにして不平等」であり、伊豆市が東名高速道路沿線や新幹線停車駅のある市町と同等の競争力を有することはできない。しかしながら、先進国の中で最も日本に国家形態が近いと言われるドイツでは、全土に限なく無料のアウトバーンが整備されているし、地方都市がその伝統や文化を守りながら生存し、若者が大都市に集中することもない。日本とドイツの社会インフラ整備の差は、「運命」ではなく、「政策」に基づくものである。

道路等社会インフラ整備における問題の本質は、投資効果の正当な評価であろうと思われる。伊豆市は、平成16年の4町合併以降約1500人の人口が減少しており、この流れが不可避であるのなら、多額の投資は正当性を持たない。しかしながら、旧田方郡（戸田村を除く）において、函南町と伊豆の国市は人口を増加させており、天城山の北側に位置し、鉄道駅を有する伊豆市は人口増加に転ずる可能性を十分に有している。このような判断に基づき、勇気を持って将来のために投資すべき分野とその優先順位について、市の総力を挙げて検討し、提案申し上げる。

―要望

道路行政について要望したいことは、

- (i) 選択と集中による必要な道路の早期完成
- (ii) 地方の事情とニーズに合った道路規格の柔軟性

②—1 地域の現状と抱える課題

静岡県伊豆市

○現状

1) 産業の衰退

静岡県において、伊豆半島全域が著しい経済低迷に直面している。県内の平均所得が330万円のところ、伊豆市は250万円。トップの裾野市525万円の半分にも達していない。産業構造全体を見ると、伊豆のイメージとは異なって商工業（給与所得者）の比重が大きく、市内の事業者が著しく減少していること、近傍の製造業等が縮小していることが大きく影響している。

また、観光業・公共事業ともに全盛期の概ね半分にまで縮小しており、反転上昇の機運が全く見えてこない。公共事業の規模拡大は望むべくもないが、観光振興は、我々にも責任がある。今なお、半島全域には毎年1200万人もの観光客が訪れているのであり、リピーターを確保するための具体的で効果的な施策を展開し切れていないと言わざるを得ない。

2) 人口の減少

雇用の減少と相まって、人口減少に歯止めがかからず、合併後4年で約1500人の人口が減少している。毎年度の（死亡―出生）の自然減が約200人、社会的流失が約200人である。

伊豆市の自主財源は約45億であり、うち40億が住民税と固定資産税となっている。従って人口減少は財源確保のためには極めて厳しい状況であり、人口の確保が急務となっている。

○課題

1) 人口の確保

a. 結婚の推進

→所得の確保

b. 子育て支援の充実

→医療、教育

c. 社会人のための雇用の創出

→ベッタウン化、農業・林業・観光業の振興

2) 所得の増加

a. 魅力ある商品（観光商品、農林水産物）の開発

b. 1・2・3次産業の総合化

②ー２ 地域の目指すべき将来像

静岡県伊豆市

産業地域への通勤圏を魅力あるベッドタウン化して人口を確保しつつ、山・里・清流・海・観光地（温泉＋伝統＋文化）の魅力を維持・発展させる。伊豆市は、「日本人の心地良い故郷」を目指す。

○人口確保

- a. 修善寺駅近傍（概ね 5 k m 以内）のベッドタウン化
- b. 優良宅地の整備、道路の整備、駅周辺の再整備、商店街の活性化

○魅力の維持・発展

- a. 地域力（市民＋行政）を発揮して、元気な山を再生し、狩野川の清流を守り、駿河湾を豊饒の海とする。
- b. 修善寺の持つ歴史と文化、湯ヶ島の持つ文学の薫りと森林イオン、土肥の持つ歴史と夕陽の美しさを伊豆市共通の資源として相互に活用する。

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

静岡県伊豆市

○重点事項 「活力分野」 ・地域活力の向上	○代表事例 a. 伊豆縦貫道（当面、東駿河湾と天城北道路）及びアクセス道路の早期完成	○期待する効果や評価等 (a)伊豆中央道が修善寺温泉口まで既に開通しており、東名高速から接続される東駿河湾道路は伊豆市にとって交流人口増加のために極めて重要。 (b)天城北道路は、宮田橋交差点及び出口交差点といった渋滞スポットを迂回し、陸路が難である土肥・西伊豆方面へのアクセス改善のために、極めて重要。 (c)中伊豆バイパスが無料化された7月以降、伊東～修善寺の交通量が顕著に増えている。伊東～修善寺～東名高速道路を連結するため、或いは中伊豆地区からの通勤経路の改善のため、市道小川遠藤橋線の2車線化は重要。 (d)土肥・西伊豆地区は、海路（駿河湾フェリー）を有しているものの、早朝・夜間の運行がないこと、天候の影響を受けることから、陸路の改善が必要である。そのため、天城北道路を国道136号と接続するアクセス道路（出口交差点を避ける）が重要。	○その他
-----------------------------	---	---	------

	b. 有料道路の解消	今年7月に無料化された中伊豆バイパスは、交通量が顕著に増え、中伊豆～伊東の移動が7分短縮された（毎日利用する市民の実感）との評価もある。修善寺道路及び伊豆中央道は、伊豆市民及び観光客の双方にとって極めて利用価値の高い道路である。通勤者は、修善寺道路を避けるために修善寺ニュータウンを迂回し、更に江間で下りて北江間を迂回することで三島までの通勤に1時間を要しているのが現状であり、利便性を著しく阻害しているとともに、世界的問題となっている環境対策に全く逆行している。無料化にすることの経済効果、環境効果を適切に判断して、早期の無料化を要望する。	
	c. 修善寺駅周辺道路の整備	修善寺駅は通勤・通学・買い物の要点であるにも係わらず、至近距離（横瀬交差点～中央ビル前）に交通信号が4箇所もあることから、不必要な待ち時間が異常に長い。修善寺橋も含めて3車線化し、右折車線を十分に整備して駅周辺を活性化することは、伊豆市が自立するために極めて重要である。	

「暮らし・環境分野」 ・良好な景観 ・地球温暖化の防止	a. 有料道路の解消（再掲） b. 修善寺駅周辺道路の整備（再掲）	電柱の地中化を促進するため、道路中央を掘削せず、路肩に沿わせる工法を開拓されたい。 まず、修善寺駅～修善寺温泉（温泉場含む）の電柱地中化実現を要望する。 自動車通勤（伊豆市内から三島方面に、一人一台）を鉄道併用に誘導するため	
---	--	---	--